

邦訳『ニルスの不思議な旅』の系譜 その2
1949年以降（昭和戦後期から現在まで）

村山朝子*

（2016年11月1日受理）

Genealogy of “*The Wonderful Adventures of Nils*”
(Japanese Translation): Part2

Tomoko MURAYAMA *

（Accepted November 1, 2016）

I はじめに

『ニルスの不思議な旅』（*Nils Holgerssons underbara resa genom Sverige*）（以下『ニルス』と略記する）は、スウェーデンで1906年第1巻、1907年第2巻の2回に分けて刊行された。スウェーデンを代表する作家の一人であるセルマ・ラーゲルレーヴ（Selma Lagerlöf）が、国民学校教員協会の依頼によって、国土理解を主目的とする国民学校読本として著した作品である。魔法で小さくされたニルスがガチョウに乗って雁の群れとともに国内を旅する中での様々な出会いや出来事を通して、国土に対する理解を深め、国や故郷に対する誇りと愛情を育む手だてが織り込まれている。同作品の成立の経緯と内容構成については、別稿（村山2011）で述べた。

日本では、1918年にその第1巻（1906）の初訳が刊行され、その後も翻訳書をはじめ同作を原作とする作品が、この百年の間に繰り返し発表されてきた。前稿（村山2017）では、初訳刊行から昭和戦争期までの、諸作品の作者に注目しつつ、それらの作品の成り立ちと特徴を明らかにするとともに、幼い子ども向けの「ニルスと動物たちとの楽しい冒険童話」という『ニルス』像の形成過程を解明した。本稿はそれに続くものとして、終戦後から今日に至るまでの、『ニルス』を原作とする諸作品の成り立ちと内容構成を明らかにし、『ニルス』像の変容をたどる。それを踏まえ、『ニルス』の今日的意義を検討する。（以下、邦訳については、単行本は『 』で、叢書類などに一作品として収録されている場合は「 」で、それぞれの邦題を示す。）

*茨城大学教育学部社会科教育学研究室（〒310-8512 水戸市文京2-1-1；Laboratory of Social Studies, College of Education, Ibaraki University, Mito 310-8512 Japan）.

表1 『ニルスの不思議な旅』主要邦訳作品の章立て

発行年 19〇〇		11	18	19	21	23	34	41	49	53	54	54	58	60	67	71	80	82	7	12	注：菱木7は発行年2007、12は2012年。 ○：はその章を取上げていることを意味する。	
章	訳者・出版社	英訳 大日本図書	香川	小林	千葉	鏡沼	香川	千葉	香川	矢崎	香川	香川	石丸	大畑	西山	香川	香川	菱木	菱木			
	原作章立て(香川訳)		香川	文芸社	講談社	東方社	私家版	講談社	学陽書房	岩波書店	創元社	講談社	角川書店	講談社	小学館	主婦の友社	アニメ	信成社	福音館	福音館	章	原作にみる地誌的内容
1	少年	○	○			○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	1	スコーネ地方の空からの景観	
2	ケブネカイセイのアッカ	○	○			○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	2		
3	野の島の生活	○	○			○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	3		
4	グリミング城	○	○			○	○	○	○	○	○	○			○	○	○	○	○	4	古城の歴史	
5	ツルの大舞踏会	○	○			○	○	○	○	○	○	○			○	○	○	○	○	5	キュッラベリの地形	
6	雨の日	○	○			○	○								○	○	○	○	○	6	春の雨	
7	三つの段々	○	○			○	○			○	○				○		○	○	○	7	スモーランド地方の地域区分	
8	ロンネビイ川で	○	○			○	○	○	○		○	○			○	○	○	○	○	8	ブレーキング地方の地形	
9	カールスクローナ軍港	○	○			○	○			○	○		○	○	○	○	○	○	○	9	カールスクローナの歴史と産業	
10	エーランド島へ	○	○			○	○	○	○	○	○		○	○	○	○	○	○	○	10	渡り鳥のルート	
11	エーランド島の南端	○	○			○	○	○	○	○	○		○	○	○	○	○	○	○	11	多様な野生生物	
12	大きなチョウ	○	○			○	○	○	○	○	○				○	○	○	○	○	12	エーランド島の成り立ち	
13	小カルル島	○	○			○	○	○	○	○	○				○	○	○	○	○	13	暴風	
14	二つの都	○	○			○	○	○	○	○	○				○	○	○	○	○	14	ゴッドランド島	
15	スモーランドの物語	○	○			○	○			○	○				○	○	○	○	○	15	スモーランド地方の成り立ち	
16	カラス	○	○																	16		
17	農家のおばあさん	○	○			○	○								○	○	○	○	○	17	スモーランドの農民の生活、アメリカへの移民	
18	ターペリからヒュスタヴァルナへ	○	○			○	○	○	○	○	○						○	○	○	18	鉱工業、製紙工場	
19	大きな島の物語	○	○			○	○			○	○		○	○	○	○	○	○	○	19	トークン湖の干拓、森の生態	
20	予言	○	○				○													20	エステルヨートランド地方、農民の誇り	
21	手織りの布	○	○				○	○	○	○	○				○		○	○	○	21	エステルヨートランド地方の空からの景観、農業	
22	カルルと灰毛の話		○	○													○	○	○	22	コールホルデンの森、森と人々のくらし、	
23	美しい庭園																○	○	○	23	セーデルマンランド地方の景観	
24	ネルケで	○	○														○	○	○	24	ネルゲ平野の暴風	
25	氷割れ	○	○						○	○		○			○	○				25	イエルマレン湖の凍結	
26	財産の分配																			26	ヴェストマンランド地方の地域区分	
27	ペリスラーゲルナで											○					○	○	○	27	鉱業、鉱山町	
28	製鉄所	○	○						○										○	28	ヴェストマンランド地方の鉱山地帯	
29	ダール川																		○	29	ダール川の源流から河口まで	
30	男の子の分け前											○				○	○	○	○	30	ファールン銅鉱山	
31	ヴァールボライ祭りの夜																○	○	○	31	ダールナ地方、19世紀の農民の生活	
32	教会堂																○	○	○	32	結婚式と葬式	
33	洪水	○	○						○								○	○	○	33	メーラン湖	
34	ウップランドの伝説																○	○	○	34	ウップランド地方	
35	ウプサラ												○				○	○	○	35	大学都市ウプサラ	
36	ダンフィン	○	○												○					36		
37	ストックホルム	○	○						○	○	○						○	○	○	37	ストックホルムの歴史、なりたち	
38	ワシのゴルゴ	○	○						○	○	○	○	○	○					○	38	スカンセン	
39	イエストリークランドの空の旅	○	○						○				○					○	○	39	イエムトリークランド地方の空からの景観、山の侵食、植林	
40	ヘルシングランドの一日	○	○														○	○	○	40	ヘルシングランド地方、移牧	
41	メーデルパッドで	○	○																	41	メーデルパッド地方、林業のしくみ	
42	オングエルマンランドの朝							○									○	○	○	42	オングエルマンランド地方の空からの景観	
43	ヴェステルボッテンとラブランド	○	○						○	○							○	○	○	43	ヴェステルボッテン・ラブランド地方の景観、北の気候	
44	ガチョウ番のオーサーと弟マツ	○	○									○	○	○	○	○	○	○	○	44	イエリヴァレ、マルムベリエットの鉄鉱山	
45	ラップ人とともに	○	○									○					○	○	○	45	キルナ鉱山都市、ラップ人のくらし	
46	南へ南へ							○	○	○			○	○	○	○	○	○	○	46	イェムトリークランド地方のなりたち、山岳地帯、氷河	
47	ヘリエダーレン地方の伝説	○	○					○									○	○	○	47	ヘリエダーレン地方、フィン人	
48	ヴェルムランドとダールランド	○																		48	ヴェルムランド地方、ダールランド地方	
49	小さな屋敷	○	○				○		○	○	○				○	○			○	49	モールバックの四季と生活	
50	岩礁の上の宝物	○	○					○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	50	ヴェルムランド地方、ダールランド地方の景観	
51	銀色の海の幸							○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	51	ヴォーヒュース地方のなりたち、フィヨルド、ニンシ漁	
52	大きな屋敷																			52	ヴェステルヨートランド地方の景観、木工教育、イエテボリ	
53	ヴェンメンヘーイへの旅	○																○	○	53	ハランド地方、スコーネ地方の景観、人工林	
54	ホルゲル＝ニルソンの家	○	○				○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	54		
55	ガンの群れとの別れ	○	○				○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	55		

Ⅱ 翻訳児童文学としての『ニルス』の復活

1) 香川鉄蔵・山室静他共訳『ニルスの不思議な旅』(1949) 学陽書房

第二次世界大戦後、『ニルス』は単行本として、スウェーデン語からの直訳で復活する。1949年に『ニルスの不思議な旅』、同続編の二分冊が、香川鉄蔵・山室静、続は香川・山室・佐々木基一¹⁾ 共訳という形で学陽書房から出版された。学陽書房は前年創業したばかりの出版社で、当時、菊池寛邸に間借りしていた。装幀と挿絵は島村三七雄による。

香川が戦前に出した私家版『不思議な旅』(1934)では第2巻について概略を記すに留まったが、この本では原作第2巻34章中の14章(表1)を取り上げ、一步全訳に近づいた。

香川が共訳として『ニルス』訳を出したのは同書だけである。香川の本意は定かではないが、山室が書いた「はしがき」によれば、共訳による出版は山室の香川への働きかけによるとみられる。「…日本でも、早くからラーゲルレーヴさんと手紙でおつきあいしていた香川鉄蔵さんが、大正七年に第一巻だけを訳されたのをはじめに、短く書きかえた本なども出ています。しかし、こんな美しく楽しい本は、もっと読まれてほしいのです。まして第二巻の方はまだ訳がないのと、第一巻も、出版されたのがずっと以前のことであり、廣くも行きわたらなかったのを残念に思っ、第一巻の訳者香川さんにおすすしめし、おねがいして、ここに共同で訳を出すことにしたので。」

続けて山室は、原作が膨大な量であることから「スウェーデンの子供を相手にして書かれた本ですから、日本人にはちょっと興味の少ない部分もところどころにあるのを幸い、それを除いて、まず二冊に収めることにしました。…(中略)…しかし、いくらか書き縮めたために、ずっと読みやすく、いっそう面白い本になっていることは保証します。」と記す。山室は必ずしも全訳にこだわらなかったことがうかがえる。

山室は、後述する1960年代を中心とする児童文学叢書類の北欧編において、北欧の民話や文学作品を訳したり、その解説を書いたりしており、北欧文学を中心に文芸評論家として知られる。『ニルス』については、「小さい皆さんに、ぜひよんでもらいたいとおもって、やさしくかいてみました」と「あとがき」に記した世界絵文庫(1956)など、幼児向けの再話などを手がけたほか、1980年3月に少年少女講談社文庫から抄訳『ニルスのふしぎな旅』を出版し、1995年4月には同社青い鳥文庫から再版している。その「解説」には、55章のなかから「作品をそこなわないように工夫しながら、だれにもたのしめる部分をできるだけおおく生かして24章ほどを訳した」(山室1995:292)とある。第1巻を中心に取り上げ、章題も「しつこい、ずる公」「ゆくえふめいのほうや」というように、原題にとらわれず、子どもが親しみやすいものにしている。

2) 矢崎源九郎訳『ニルスのふしぎな旅』(1953・1954) 岩波少年文庫

1953・1954年、矢崎源九郎(1921-1967)訳『ニルスのふしぎな旅』上下二分冊が出版された。「岩波少年文庫」のそれぞれ整理番号1037, 1038として出版された。整理番号は対象年齢を示し、1000番台は小学3, 4年以上向けとされた。矢崎は言語学者で、アンデルセン、イブセンなど北欧文学の翻訳で知られ、多数の訳書、著書がある。矢崎によるラーゲルレーヴ作品の翻訳は同書のみである。

「まえがき」に「この本には、スウェーデンの歴史や風俗などで、日本のみなさんにはわかり

にくいところや、おもしろくないところもありますので、そういう所は少々省きましたが、だいたいにおいて、できるだけわかりやすいようにくだいて全訳しておきました」とある。原作第1巻21章はすべて訳し、「あらすじだけをおしまいにつけておきました」とする原作第2巻については、「その後のニルス」と題して9章ほどを取り上げている。上巻には前半のスコーネを中心とした地図、下巻にはスウェーデン全図を付し、それぞれにニルスがたどったルートが示されている。

「岩波少年文庫」は、1950年12月に創刊された岩波書店初の児童書全集である。巻末頁には、「岩波少年文庫発刊に際して」と題してその発刊の精神が記されている。海外児童文学の名作については「少数の例外的な出版者、翻訳者の良心的な試みを除けば、およそ出版部門のなかで、この部門ほど杜撰な翻訳が看過され、ほしいままの改作が横行している部門はない。私達がこの文庫の発足を決心したもの、一つには、多年にわたるこの弊害を除き、名作にふさわしい定訳を、日本に作ることの必要を痛感したからである。翻訳は、あくまで原作の真の姿を伝えることを期すると共に、訳文は平明、どこまでも少年諸君に親しみ深いものとするつもりである。」とあり、それまであまり取り上げられたことのない作品を積極的に取り上げ、また再話や抄訳ではなく、完訳を目指した。

香川・山室他共訳と矢崎訳、これらの翻訳書では、戦前まであらすじしか明らかでなかった第2巻が、抄訳ではあるものの半分近く取り上げられた。それにより、原作に忠実な翻訳児童文学としての長編物語『ニルス』のほぼ全容が広く知られる礎となった。しかし、戦争を挟んで定着した『ニルス』像を変えるまでは至らなかった。というのも、こうした訳書をもとに、1950年代以降、関淑子（1951）、奈街三郎（1954）、佐藤善美（1956）をはじめとする複数の作家による再話が多数出ることになり、逆に「幼い子ども向けの冒険物語」として新たに一般に広まり、戦争期からのその『ニルス』像が強化されることにもなったのである。

3）香川鉄蔵訳『ニルスのふしぎな旅行』講談社「世界名作全集」85（1954）

「岩波少年文庫」刊行の半年ほど前、対照的な児童書全集が創刊されている。大日本雄弁会講談社（1958年講談社に改名）が1950年6月「講談社版世界名作全集」の配本を開始したのである。文庫サイズの「岩波少年文庫」に対し、一回り大きな版で、ハードカバーでカラーの口絵が巻頭を飾るハードケース付きの豪華な装本であった。

当初は一期10巻ずつ発行されたが、予想以上に大変な評判となり、50巻、100巻と継続され、1961年まで累計じつに180巻を数えた。「子ども向けに優しく再話したもので」「純文学・大衆文学の境なく、一度読んだら一生忘れることができない魅力的な作品」を揃え、「日本の児童は、この名作全集によって、世界の著名な作品をぐっと身近なものに引き寄せることができたのである（児童文学翻訳大事典編集委員会編2007：212）」²⁾。

1954年（9月15日）、この「世界名作全集」第85巻として、香川鉄蔵訳『ニルスのふしぎな旅行』が出版された。表紙・口絵・挿絵は山森元亀、装幀梁川剛一である。原作第1巻21章中10章、第2巻34章中18章を中心に章を再構成して3編24章構成（表1）とし、タイトルも半分以上が原作の章題と異なる創作になっている。とくに第2巻の章が半分以上取り上げられることによって、第2巻の内容がこれまで以上に詳しく明らかになった。

巻頭の「この物語について」で、香川は物語のあらすじを記している。旅を通してニルスが助

け合うことや勇気、愛情心や正義感を身につけ、「生まれ変わったように」心優しいりっぱな少年になって父母の元に還ってきたとし、「私どもは、ニルスといっしょにこの本で旅行しているうちに、世界には一つの秩序があること、人間・動物を通じて大きく支配する心理は愛と正義であることを学び知ることができるでしょう」と結んでいる。香川の第一の『ニルス』観はここに集約されているといえよう。

香川は『ニルス』のもう一つの側面についても価値を見出していた。ここで注目したいのは、ニルスが「旅行のさきぎの地理・風俗・産業などを、まのあたりに見るにつけ、知識欲がさかんになって」いくことに香川が触れていることである。この作品では、学陽書房版（1949）で訳出していない第2巻の章が多数加えられ、章として取り上げていない箇所も要点が盛り込まれるなどしている。地理的な描写や地名が丁寧に訳され、ストーリーそのものにはあまり関係しない各地の産業や人々の暮らしなど地理的な章が新たに訳出されている。なかでも27、28章や30章などベリースラーゲルナやファールンなどの古い鉱山町を取り上げた章は、全訳に近い。

このことについて、巻末の「解説」で那須辰造³⁾が言及している。那須は、「『ニルスのふしぎな旅行』は、童話ふうな物語ですが、長さの点でも内容の点でも幼い子どものために作られた童話ではないのです。たぶんみなさんがこれまで読んだ『ニルスの旅』は、幼児向きに作りかえられたものだったのです。」として、話の舞台となるスウェーデンの地域性や北欧神話のエッダや伝説のサガなどに触れた上で、作品の成り立ちについて次のように書いている。

「この『ニルスのふしぎな旅行』は、あるときスウェーデンの教育会から課外読物を作ってほしいとたのまれて、スウェーデンの少年少女のために書いたのです。ニルスが南から北へ飛んでいく間に、スウェーデンの地理や歴史や、風俗や人情や、風景や伝説などいろいろなことがわかるように仕組みられています。みなさんがこれまで童話として読んだ『ニルスの旅』では、そういうたいせつな点がはぶかれていたのです。」ほかの多くの訳書では「つまらないところ」として省かれた箇所を、那須は「たいせつな点」と評価し、それが同作品では丁寧に描かれており、抄訳でありながら原作の本質を伝えることに成功している作品といえよう。

4) 石丸静雄訳『ニルスのふしぎな旅』（1958）角川文庫 1715

1958年、『ニルスのふしぎな旅』が角川文庫からドイツ文学者の石丸静雄（1912 - 1988）訳で出ている。角川文庫は1949年に発刊され、「発刊に際して」には「これまで刊行されたあらゆる全書叢書文庫類の長所と短所とを検討し、古今東西の不朽の典籍を、良心的編輯のもとに、廉価に、そして書架にふさわしい美本として、多くのひとびとに提供しようとする」とある。戦後、文化復興を掲げて出版各社が発刊した文庫の一つであり、子ども向けではなく、一般文庫に『ニルス』が一文学作品として収められている点で特筆すべき訳書である。なお同文庫では、この他ラーゲルレーヴ原作『沼の家の娘』（1951）、『幻の馬車』（1959）が、いずれも石丸訳で出版されている。

石丸は「あとがき」に、「女史の名作の一つであるこの物語を訳すにあたって、訳者が一番困ったのは、長い長い原作をどのようにして一巻の文庫におさめるかということであった」と記している。子ども向け物語としては破格の長編をどう縮訳あるいは抄訳していくかということは、邦訳に限らず、諸外国の翻訳者にとって大きな問題であったにちがいない。多くの言語が翻訳の際

にスウェーデン語の原作ではなく、英語からの重訳が多かったとみられる。そもそもそのハードによる英訳が全章を取り上げたわけではなく、第2巻の一部の章を割愛している（表1）。それが各国語による翻訳の基準になり、そこから多くは子ども向けにさらに抄訳されたと推測される。

石丸はこう続ける。「いくつかの方法が考えられたが、訳者はだいたい、現在ドイツなどで行われている原作の取扱い方にならって、大筋とあまり関係のない、またわが国の読者には親しみにくいと思われるような、スウェーデン国の歴史や伝統に関するこまかい話のところははぶかせてもらい、もっぱら、少年ニルスの生活と、それをめぐる鳥や獣とたちの自然の生活をいきいきと捉えた章をたどって横のつながりとし、一応のまとまりをつけてみた。これでも原作のおもしろみは大体うかがえるかと思う。」と記し、第1巻8章、第2巻7章と大胆に章を絞っている（表1）。やはりここでも、子ども対象の場合と同様、スウェーデンの地理や歴史に関する記述が割愛の対象となっている。

Ⅲ 児童文学叢書に収録された『ニルス』

1953年に学校図書館法が制定されたのを機に、1950年代後半から1960年代にかけて翻訳児童文学叢書の刊行が本格化する。Ⅱで取り上げた「岩波少年文庫」「世界名作全集（講談社）」は同法制定前に刊行が始まったものであり、それらと同法制定以降の叢書類とでは、かなり形式や性格が異なる。前者は一冊一作品を原則として不定期発行で自由分配であったのに対し、後者は最初に全集の全体企画が作られ、イギリス編、フランス編、北欧編というように地域別編集の形で、一冊に複数の作品を収録した。

1) 香川鉄蔵訳「ニルスのふしぎな旅」（1954a）創元社『世界少年少女文学全集』22巻北欧編2

数ある叢書の先駆けとなったのが、1953年に配本を開始した創元社による『世界少年少女文学全集』である。「ニルスのふしぎな旅」は、香川鉄蔵訳が1954年（4月15日発行）第18回配本第22巻北欧編2に収められている⁴⁾。Ⅱであげた同じ香川訳の講談社版より5ヶ月早い発行になる。カラーの口絵は鶴岡政男のオリジナル画であるが、本文中の挿絵はリーベック（Bertil Lybeck）を使っている⁵⁾。

原作第1巻21章の全章（表1）を取り上げ、学陽書房版（1949）では外した第1巻7, 9, 12, 15章など地理的な章も訳出している。第2巻については原作34章中9章をとりあげている。「第2巻1スカンセンの野天博物館」の冒頭、次のように記している。

「…「ニルスのふしぎな旅」というからには、そのスウェーデンの国じゅうを旅行したありさまは、びっくりするようにすばらしいものでなければならない。トムテに魔法にかけられてから、がんのむれとともに旅にでて、ほんの一月しかたない「日記」がこれまでお話ししたような長いものになった。…（中略）…ニルスの旅行記も、大変長いものとなるわけだ。そこで、途中で聞いた郷土伝説や、いろいろ見たり、聞いたりしたことをはぶくことにして、少年の行動ののだいたいと、…（中略）…オーサ、マッツのこと、またニルスのふしぎな旅の話を聞いて、書く気になった人のこと、の三つのすじだけにかぎってこれから書きしるそう。ただ、この説話のさいごのところは、ことにくわしく書こう」（香川1954）という断りをして、第2巻の話に入っている

のである。

また、香川は巻末の「解説」で作品について次のように記している。「『ニルスのふしぎな旅』は「事実」と「そらごと」とをたくみにおりなした美しい布ですから、ここにでてくる地名、人名は、長たらしく、みなさんにはわずらわしいでしょうが、あまり手を加えず、なるべくそのままにしました。…（中略）…第1巻では、おもにニルスと動物とのあいだがらが書かれていますが、第2巻では、地方伝説や鳥獣の話のほかに、ニルスと人間との関係が出、またべつにウーサ、マッツの姉弟の生活、けなげな旅行などが、息もつかせぬ緊張のうちに場面を変え、興味深いものがあります。」第2巻が概略にとどまったのは、ページ数の制約などによるものと思われる。それを補うかのように、Ⅱで述べた講談社版（1954）では、第1巻の幾つかの章は割愛して第2巻を中心に訳出されている。同じ1954年に発行された創元社版と講談社版、それぞれの編集方針や枚数制限などに対応しながらも、香川は両版の内容構成を変えることによって、結果的にできるだけ多くの章を紹介しようとしたのではないだろうか。

2) 相次ぐ児童世界文学叢書の刊行

1958年、大日本雄弁会講談社は創業50周年を迎えて社名を講談社に正式改名し、新たな叢書『少年少女世界文学全集』（1958年～1962年全50巻）の刊行を開始した。同叢書も地域別編集のスタイルをとり、1960年第36巻北欧編2に「ニルスのふしぎな旅」が大畑末吉（1901-1978）訳で収録された。大畑はアンデルセンやグリム童話の翻訳などで知られる北欧文学者である。原作55章中13章と大幅に章を絞っての抄訳・再話スタイルをとった（表1）。このほか山室静訳によるスウェンソン「ノンニの冒険」「北欧民話」やトペリウス「オーボー城の小人」などが収載されている。この講談社版あたりから、児童文学叢書は一大ブームとなっていき、相次ぐ各社の叢書の多くがこの抄訳スタイルに倣った。

1964年には、小学館「少年少女世界の名作文学」の配本が始まった。小学館は編集方針として「翻訳は各専門家の手で厳正に、文章表現は児童文学者の手によってかおり高く平易に」「それぞれの国の児童文学を中心にした文学史を掲載」とした。

「ニルスのふしぎな旅」は1967年、第39巻北欧編2に収録された。「西山敏夫・文」とあり、西山による再話であることを明記している。児童文学作家の西山（1905-2000）は、短編童話を創作する傍ら、「ロバものがたり」（1957）、「せむしの小うま」（1962）ほか内外の古典の再話を数多く手がけている。「ニルスのふしぎな旅」は原作55章中15章（表1）を、基本的には子ども向きに平明に大きく文章を改めたもので、挿絵が多数入れられた。本文が子ども向けなのに対して、「解説」は保護者向けに、山室静が「著者や作品について」「北欧文学の歩み」を詳述している。

なお、小学館は間を置かず、内容は同じだが、挿絵をカラー化し装丁も豪華にしたシリーズを刊行している。講談社も読者対象を下げて小学館スタイルのものを出し、偕成社やポプラ社などにもこの小学館スタイルが受け継がれた。

これらの翻訳児童文学叢書は、児童文学の世界に新たな流れを持ち込んだ。刊行が後になるにつれ、話は短く抄訳・縮訳の比重が増して、子どもが関心をもちやすく読みやすいことが重視されるとともに、保護者向けの解説や読書の手引きなどが膨らんでいった。翻訳児童文学は文芸性よりも教養や学習の素材としての価値が重視されていったともいえよう。後の発刊ほど挿絵が大

きくカラー化し、挿絵の動物はキャラクター化していき、内容はニルスと動物たちとのやり取りを中心とし、それを通したニルスの心の成長を描く作品という『ニルス』像に逆戻りしていった。

冒頭に述べたように、翻訳児童文学叢書ブームの一つのきっかけになったのが、1953年の学校図書館法の制定であった。全国学校図書館協議会は必読図書委員会を編成して共同研究を行い、その成果として1958年『何をどう読ませるか』を刊行した。これが、上述した翻訳児童文学叢書における作品の選定にも少なからず影響を与えたものとみられる。その小学校中学年向け推薦図書内外38作品の中に『ニルス』がある。そこでは1957年講談社「世界童話全集」に収録された千葉省三の作品をあげている⁶⁾。「原作の前半を3、4年生程度に翻案しており、大幅な削減がなされているが、原作の面白さを伝えるのには成功している」とあり、「雑誌や漫画に出てくる冒険物語が子どもに悪影響を及ぼすことが多いが、ニルスにおけるしろねずみ退治やきつねをこらしめるといった冒険的な行動は健全であり、しかも子どもに喜ばれるものといえるとしている。またニルスの心の成長が巧みに描かれていることをあげ、徳目を教え込む道德教育が子どもに効果がないが、子ども自身の体験がいかに人間を作るに役立つかを教えられる物語である」と評している。省略された部分については「此の本を読み終えてまだ何か物足りなさをかんずるとか、もっとニルスの冒険についてききたいという希望があったなら、指導者はそれを補ってやると良い。岩波少年文庫が良いよりどころとなる。中学年程度ではまず読みこなせないから教師が読んでやるとか、話してやるとかする必要がある」とある。同様に日本読書指導研究会編『少年少女のための文学案内』（1962）にも『ニルス』があがっている。

こうして、学校図書館法の制定を機に出版各社が多数発行した児童文学叢書類が家庭や学校に備え付けられていく中で、『ニルス』は単なる子どもが夢中になる楽しい冒険物にとどまらず、いたずらで怠け者のニルスが、親思いで生き物を大事にする心優しく健全な子どもに成長するストーリーにおける道徳的要素に対する評価の比重が大きくなっていき、学校図書の一作品という位置づけになっていった。

Ⅳ 教科書に掲載された『ニルス』

1960年代を中心に、小学校国語教科書には世界の名作の再話が数多く収録された。各学年上下、2冊のそれぞれに概ね一作品が掲載された。

三省堂『小学校国語3年下』（1961年～67年）の最終単元に「ニルスのふしぎなたび」が収録されている。教科書会社が教師向けに作成した『教授用資料』（1961:122 - 132）によれば、「心情を豊かにする童話や物語を読む」ことのための教材に位置付けられ、またこの経験を「学級文庫や学校図書館を利用して本を読む」ことにつなげる教材でもあるとする。「空想的な童話であり、冒険的な要素の多い中に主人公の動物たちに対する愛情がテーマになっていて児童が興味をつないで読み進めることができる」とし、読書能力の向上をねらいとする読み物教材になっている。学習活動としては、ニルスの行動や気持ちの変化を捉えることが想定されている。

きつねからがんを守った話、人間に捕まえられた母りすをニルスが救った話、笛を吹いて灰色ねずみを追い出した話などが次から次へとあらすじだけを追うように続き、長い旅の間に親切で勇気ある賢い少年になり、家に帰ると元の人間の子どものに戻っていたというストーリーである。

国語の授業では、言語技能の向上という第一の目的とともに、心情を豊かにすることも目的にあげられる。しかし、どこの物語かも示されず、「北きよくの島ですずしい夏を過ごし、家に戻ると元の大きさに戻るなど、大幅な省略や改変がみられる。

動物が擬人化され、ストーリーがダイナミックでわかりやすい海外の長編物語の再話は、低学年の児童にも親しみやすく、ストーリーをたどりやすく、教師も扱いやすかったと考えられる。当時のその他の同年用教科書⁷⁾をみると、「イソップ物語」(三省堂)、「みつばちマーヤ」(二葉)、「ピノキオ」(光村)など絵本や童話でなじみの作品が取り上げられている。他学年をみると「ガリバーのたび」(2年光村)、「フランダースの犬」(4年光村)、「ロビンソン＝クルーソー」(5年信教)なども収載されている。小学校の教科書教材には、原作がある場合そのまま掲載するのではなく、編集され再話となるのは当然のことではある。とはいえ、エピソードをつないでストーリーをたどるだけのつくりは、翻訳作品とは別物の読物教材である。

V 晩年の香川鉄蔵

ラーゲルレーヴ生誕100周年にあたる1958年、7月初旬から9月初旬の1ヶ月半余、香川はスウェーデンを訪問した。ラーゲルレーヴをはじめとする香川の長年にわたるスウェーデン研究の功績を知ったスウェーデン大使館のオロフソン副領事の尽力が実って、スウェーデンのラーゲルレーヴ協会による招待で実現した⁸⁾。70歳を目前にして初めての海外旅行であった。

帰国早々、香川は旅の記録を記念帖としてまとめ、『NILS HOLGERSSON-RESA genom SVERIGE 1958』(香川1958)のタイトルで自費出版し、11月には世話になった人たちに配っている。巻頭言でスウェーデン訪問について「ラーゲルレーヴの伝記を書き、“Gosta Berlings Saga”, “Jerusalem”そして『ニルス』の「完全なる和訳を果たすことを主目的として視察にまいった」とある。香川にとって、完訳は夢ではなく、この時点でなお現実の目標であった。

この年、スウェーデンの国鉄は、ラーゲルレーヴ生誕百周年を記念してスウェーデンを鉄道でまわる「ニルスの旅」切符を企画した。その無料切符を提供された香川は、『ニルス』の旅のルートを追うように、スウェーデンを南から北まで鉄道で縦断した。行く先々で歓迎を受け、メディアの取材も受けた。その合間に各地の図書館や博物館、書店を訪ねた。『ニルス』ゆかりの街を歩き、教会を参拝し、丘に登り景色を確かめた。また、グンデルトをはじめ旧知のスウェーデン人らと再会し、旧交を温めた。ラーゲルレーヴの故郷モールバックにも滞在し、彼女の旧居に宿泊を許された。

『ニルス』に登場するネースの手工講習所にも調査のため訪れた。というのも『ニルス』52章にネースの手工講習所に「日本からきたのであろうか、黄色がかった肌の、小がらな紳士がすわっており」というくだりがある。この人物は誰なのか、香川は講習所で当時の名簿を丹念に調べ、1888年の修了生に「Geuichi Nosiri (写真にはS.Nosiri)」「Makita Goto」⁹⁾の名を見出した。前者は野尻精一(1860 - 1932)、帰国後は高等師範学校教授、文部視学官などを経て1908年奈良女子高等師範学校初代校長となる。後者は後藤牧太(1853 - 1930)、くしくも香川が附属中学校に在籍した時の教頭であった。ネースの手工講習所は手工教育をスウェーデン内外に広めたオットー・ソロモンが開いた研修施設で、文部省が技術教育の導入の参考にするために、二人を

派遣したのである。

1961年11月、香川は病を患い、手術を前に、前年に亡くなった旧友、和辻哲郎の夫人、旧友和辻照に手紙を送っている。遺稿集に寄せた夫人の手記の中に、その手紙が転載されている。そこには、学生時代のこと、仕事のこと、ラーゲルレーヴのことなど、人生を振り返るようなことが記されている。万一のことを考え、長年の感謝の気持ちを込めて書かれたものとも読める。スウェーデン訪問について次のように記している。

「私は瑞典のセルマ・ラーゲルレーヴの作品について、その life に関心を持ち尊敬を懷きました。1956（ママ）年に多年の念願がかなひ、その国に招待され、彼女が住み、彼女がそこに生涯を閉じたモルバックに、10日間起居することを許され（外国人として初めて）大きな屋敷にたった一人滞在し得たのは、私の生涯中最大のほまれであります。これは何ものにもくらべがたい幸福です。」（和辻 1971）

香川は1966年4月、スウェーデン国際文化情報協会から、優れた翻訳とスウェーデン文化の紹介の業績に対して賞状を授与された。晩年香川は病に悩むが、最後まで精力的に活動し続けた。亡くなる2ヶ月前の日記には次のようにある。

「十月十二日（土） 晴れ、暖か

待望10年以上にもなる「ニルスの旅」の初版到着。表紙も美麗でもそのまま、伴し、堅牢に製本し直してある。ただあちこちにえんぴつにて印がついているので、それをみつけてはゴムで消すにかなり時間がかかり、完全に終わったのは午前四時。…（中略）…。「ニルス」の旧版の挿絵及び写真甚だ有用。その大半を忘れ去っていた（1943年頃京大図書館に譲渡するまで、蔵書にあったのに）。伴し初版だけに写真印刷先ず可。（実物風景とて有用）。…（中略）…。「ニルス」の初版を撫し、心優しい。挿絵がよい。此の著述は私には実に優しい。訳本出版のできぬのがくやしい。」（遺稿集 1971）。

1968年12月9日、香川はその生涯を閉じた。最後の『ニルス』訳を収めた『ノーベル賞文学全集 18巻』は、没後1971年に出版された。同全集には、各受賞作家について選考経過、授与演説、受賞演説、人と作品、著者目録とともに、作品が一作掲載される。ラーゲルレーヴについては、香川訳が初めて原題に忠実な「ニルス・ホルゲルソンの不思議なスウェーデン旅行」の題名で収載された。同巻に付された「月報」に掲載された小文「ラーゲルレーヴと私」（香川 1971b）が遺稿となった。

没後出された追悼集『香川鉄蔵』（1971）には、香川の遺稿とともに生前香川と親交の深かった70名を超える（内8名外国人）手記が載せられている。学生時代、満州時代、大蔵省時代など様々な場面で香川と接してきた人々から異口同音に語られるのは、裏表のない、私利私欲のかけらもない、ただ日本の平和と将来を慮り、学問に精進し、芸術と文化を愛した香川の情熱であった。それは『ニルス』の翻訳と普及への情熱と重なるものである。

Ⅶ テレビアニメシリーズ『ニルスのふしぎな旅』

児童文学が教養化し、読書が学習活動化していくなかで、供給過剰気味的全集ブームも下火となる。代わって1960年代に急速に普及したテレビが、子どもの時間を占めていった。

1970年代には、民放テレビアニメドラマで海外の児童文学の名作を取り上げるようになった。フジテレビの名作アニメドラマシリーズから1974年の「アルプスの少女ハイジ」、1975年「フランダースの犬」、1976年「母をたずねて三千里」、1979年「赤毛のアン」などのヒット作品が次々に生まれた。いずれも原作は世界の名作文学として子どもたちを魅了した文学作品である。

こうした民放のアニメドラマブームを追う形で、NHKでは小学校高学年を主対象とするアニメ番組の放映が始まった。第1作1978年4月～10月放映の「未来少年コナン」は日本アニメーション、第2作1978年11月～1979年12月放映された「キャプテンフューチャー」は東映動画が委託制作した。

第3作目が「ニルスのふしぎな旅」だった。テレビアニメはドイツ(当時西ドイツ)のベータ・フィルム¹⁰⁾との合作で企画された。つまり最初から海外配給が前提で作られたアニメで、制作を学習研究社(現:学研ホールディングス)が担当した。制作に当たっては、まずアメリカのクリエイターが原作をもとに一話毎の大枠を企画立案し、それをベースにベータ・フィルムと学研とが詳細を検討し、スタジオぴえろが脚本・演出を担当して、初めて現場でのアニメづくりとなった。

それまで主に教材映画を制作してきた学研の映像事業部初のテレビアニメであった。アニメーションを制作したスタジオぴえろは設立したばかりで、「ニルスのふしぎな旅」が第一号作品である。各社スタッフの制作に対する意気込みは並々ならぬものがあった(原1980)。ドイツ語版や英語版『ニルス』の完訳があったが、日本には完訳はまだなかったため、プロデューサーである学研の神保まつえは、ドイツ児童文学の翻訳・再話も多数手掛けていた文学者の植田敏郎に依頼して未訳箇所のあるすじも確認し、北欧の大自然のイメージが『ニルス』と結びついて構想が湧いたという(DVD2002)。

ぴえろの美術スタッフは学研とともに、当時としてはめずらしい取材旅行に出かけ、スウェーデン各地で写真を撮ったり、図鑑や地図など様々な資料を収集したりした¹¹⁾。制作プロデューサー布川ゆうじは、「アニメーターには動物の動きや表情に対する洞察力と動物への深い愛情を、背景を担当する美術スタッフには、北欧特有の自然を豊かな色彩で描く表現力を求めた」と語る。総監督の鳥海永行は、ストーリー主義全盛の当時にあって「ニルスが会える自然の息づかいを描きたい。枯れた草、水に流れる花びらの姿、通り過ぎる鳥や獣が、リズムをもって動きまわる。そこに生命がありドラマがある」として一コマ一コマが詩となるアニメのジャンルを切り開きたいと述べている(原1980)。

「ただの背景から、見せる背景、劇的な背景を作る」ことに挑み、「画面はリアリズムは避け、抽象化、創造化を心がけましたが、特徴ある風物はおおざりにはできませんでした」(DVD2002)という神保の言葉は、ラーゲルレーブが最初に読本制作の依頼を受けた際に返答の手紙に記した「話はフィクションになっても、地方の描写は本物に」(村山2011)という文言を彷彿させる。

こうして国も組織も異なる数多くのスタッフが様々な立場から制作に関わってテレビアニメ「ニルスのふしぎな旅」は出来上がった。原作に通底する自然観への彼らの理解と共感が、作品の完成度を高め、作品に強いメッセージをもたせた。

テレビアニメ「ニルスのふしぎな旅」は、1980年1月から1981年3月にかけて毎週金曜夜7時30分から8時までの30分というゴールデンタイムに放送された。それは多くの視聴者にとっ

で初めて出会う『ニルス』だった。放映が始まるとまたたく間に大人気となり、常時15～16%の高視聴率を獲得し、NHKのアニメシリーズ最大のヒット作となった。テレビのメディアとしての発信力は書籍の比ではない。『ニルス』は再び注目され、広く世に知られることになった。そしてそれまでの『ニルス』像を塗り替えることになった。

テレビアニメは、極端に地理的な内容に特化した章を除いたものの、原作55章中35章（表1）という、それまでのどの翻訳本よりも多くの章を取り上げ、それをアニメ化した。香川訳書（1954）の「解説」において、那須辰造は原作に描かれた「スウェーデンの地理や歴史や、風俗や人情や、風景や伝説など」の「たいせつな点」が、それまでの童話では「はぶかれていた」と記していた。テレビアニメでは、それまで省かれてきた、あるいは表現できなかった地理的描写やスウェーデンの風土、那須の言葉を借りれば「たいせつな点」を、「映像」という形で可視化して蘇らせた。背景となる風景や植生、建物などが丁寧に描かれた。内容は自然と人間との関わりに注目し、次から次へとおこる出来事を通しての自然や動物との共存を強調したつくりは、原作に通底する思想につながるものであった。また、アニメはニルスを原作どおり少年に戻した。原作にはないキャラクターのハムスターについては賛否両論だろうが、主人公のそばにいつもいる脇役はアニメには欠かせない存在であり、外せない愛すべき人気者となった。

テレビアニメはドイツでも放映された。動物の表現やそれぞれの風習の違いなど制作では思わぬところで両国の文化の違いで問題が発生したこともあったという。それでもテレビアニメはドイツばかりでなく多数の国々で放映され好評を博した。

NHKでの放映終了後、日本国内では地方局やBSなどで繰り返し再放送された。学研は幾つかの回を16ミリフィルムやVHSビデオで学校向けに販売した。その後2002年には、DVD化されて全編がセット販売された。

Ⅷ 完訳の刊行

1) 初完訳：香川鉄蔵・香川節訳『ニルスのふしぎな旅 [1]－[4]』（1982）偕成社

香川鉄蔵による完訳は、その生前に刊行には至らなかったが、香川の長男、香川節がそれを実現させた。香川節は、高校教員として歴史や地理を教える傍ら、独学でスウェーデン語を学び、鉄蔵の遺志を継いで全訳を整えた。その出版に奔走したが、実現しないまま時が過ぎた。一般的な長編児童文学作品の倍はある上、古典的名作として単行本になっている作品に比べると、『ニルス』の知名度は今ひとつだった。それが前章で述べたように、1980年にNHKでテレビアニメドラマが放映されたことによって、事態は一変した。一気に再び『ニルス』が世に知られるようになり、出版の打診を受けた偕成社は快諾し、初完訳の刊行となった。

1982年4分冊で完訳『ニルスのふしぎな旅』が出版された。訳者名には初訳者でもある香川鉄蔵と香川節の名が連記された。この完訳の出版によって原作の全容が明らかになり、原作に込められた真のメッセージが、ようやく読者に届くようになったのである。

2) 新完訳：菱木晃子訳『ニルスのふしぎな旅』上・下（2007）福音館書店

原作誕生100周年の2007年には、児童文学翻訳家の菱木晃子¹²⁾がよる完訳『ニルスのふしぎな旅』上下2巻本が福音館書店から出版された。菱木はスウェーデンを中心に北欧児童図書の翻

訳を多数手掛け、講演などその紹介の活動も積極的に行っている。2012年には、菱木は『ニルス』の中から6つの話を取り上げて独立した話として、絵本『ニルスが出会った物語』シリーズを出した。

なお、2011年には山崎陽子訳『ニルスの旅－スウェーデン初等地理読本－』が出版された。じつは原作ではスウェーデンの全地方のなかで唯一取り上げていない地方があった。ニルスの故郷スコーネの北に位置するハランド地方である。他の地方はそれぞれ章を設けてその地方を舞台とした創作をしているが、同地方については「ハランズオースの尾根の上を飛んでスコーネに入った」と記すだけで地方として取り上げていない。出版後指摘をうけ、ラーゲルレーヴは1910年『スウェーデン観光協会年報』に「ハランド物語」を追録した（山崎2011）。山崎はこれを訳出し、「補遺：ハランド物語」として訳書に収載している。

3) テキストとしての『ニルスの不思議な旅』

香川鉄蔵・節による完訳が刊行されて、『ニルス』は児童文学としての価値を超えた意味をもつようになった。まず文学作品として読者対象が広がった。さらに様々な分野で注目されるようになった。それは原作『ニルス』が綿密な調査・情報収集に基づく、著者ラーゲルレーヴの言葉を借りれば「どれも特定の地方、特定の場所に関係した事実を含んだもので、描写は本物である」（村山2011）、つまり事実に基づくフィクションであることによる。

例えば、地質学者の蟹沢聡史（2007）は、作品に描かれたファールンやキルナの鉱山や製鉄所に着目し、専門の立場から『ニルス』を取り上げている。また地理学者の米地文夫（2007）は宮澤賢治と『ニルス』との関係に着目し、宮沢賢治が同書を読んでいるという仮説を立て、賢治の作品を分析している。北欧のスロイド教育を研究する横山悦生は、スロイド教育の授業で、ネースの手工講習所とオットーソロモンが登場する『ニルス』を文献にあげている。村山（2005）は『ニルスのふしぎな旅』を地理教育の視座で読み解き、通底する地理思想を明らかにするとともに日本における地理教育のあり方を探った。またスウェーデン社会理解のテキストとして同作品を大学教養教育の授業で活用した。愛知県の高校地理教員中野正人（2006）は、空から地域を眺め描写するという視点をヒントに、世界地誌の学習において地図を手がかりに生徒自らスウェーデン、アフリカの地域的特色を捉える実践をした。理化学研究所所長玉尾皓平（2012）は『ニルス』誕生の取り組みに学び科学技術の恩恵を伝える教材作成を呼びかけた。

『ニルス』は当時の科学の成果や各地の地域情報を収集して作られた一大地誌をベースとした物語であり、そこには生き物とそれを育む大地に対する畏敬と愛情、自然と人間との共存、持続可能な社会の形成などに繋がる思想が底流にある。当時の科学成果と地域の具体的な事実とに裏打ちされた、想像力と壮大かつ綿密な構想力による創作である。

Ⅹ 結語

1918年の初邦訳から今日に至るまで、日本では『ニルス』を原作とする様々な訳書や諸作品が生み出されてきた（表1）。文学界では無名の香川鉄蔵による初訳、続く小林哥津による第2巻重訳（1919）も含め、大正期から昭和戦前期には、作品は広く流布することはなかった。その後、昭和期には大日本雄弁会講談社から発行された童話作家の千葉省三による幼年向け雑誌への連載「ニルスノバウ

ケン」（1939）が人気を博し、次いで千葉が『不思議な旅』（香川 1934）を翻案して小学生向けに著した『ニルスの冒険』が広まり、「子ども向けのニルスと動物たちとの楽しい冒険童話」という『ニルス』像が世に定着した。これら昭和戦争期までの邦訳についてはすでに述べた（村山 2017）。

戦後、香川らや矢崎らによって原作からの翻訳が復活し、第1巻ばかりでなく第2巻の章も抄訳され、『ニルス』のあらすじが知られるようになった。しかし、戦争期に定着した『ニルス』像を覆すほどの広まりはなく、これらの訳書を翻案した幼児向け童話や絵本が多数出回ったため、戦争期に定着した『ニルス』像は、むしろ拡大していった。

1953年学校図書館法の制定を機に、1960年代を中心に各社が創刊した児童文学叢書の北欧編に『ニルス』はほぼ収載された。訳出箇所は出版社によって異なり、初期の叢書は多くの章を取り上げたものが多かったが、後発になるにしたがって、章を絞った抄訳の度合いが高いものが多くなった。ストーリーに直接関わりのない、スウェーデンの地理や歴史に関わる箇所は割愛される一方、挿絵の数が増え、しかも大きく取られるようになった。これら一連の叢書では、訳文に加えて作者や物語の舞台などに関する詳細な解説が巻末に掲載され、読書指導が掲載されるものも現れた。こうした児童文学叢書は、学校や地域の図書館に備え付けられるとともに、家庭で全集を買いそろえることがブームにもなった。『ニルス』は名作として推薦図書などにも挙げられる作品群に加えられた。

1980年1月から1981年3月に放映されたテレビアニメがきっかけの一つとなって『ニルス』は再び注目され、1982年には香川鉄蔵の長男香川節によって香川鉄蔵・節訳の完訳書が出版された。また原作誕生百周年を機に、2007年には菱木晃子による完訳書が出版された。

完訳の出版によって原作の全容が明らかになり、『ニルス』は単なる児童文学作品を超えた価値をもつようになった。国土理解を主目的とする事実に基づく物語である『ニルス』に描かれた事象は関連学問科学の研究者によってテキストとして用いられるようになった。困難に遭っては知恵を絞り仲間と力を合わせて解決するという数々の体験を通した心の成長というテーマに加えて、完訳によって明らかになった自然と人間との共存という『ニルス』に通底する思想は、時宜を得てあらためてクローズアップされるようになった。

以上のように、邦訳『ニルスの不思議な旅』は大まかに二つの作品像を有している。一つは児童文学に位置付けられた「ニルスと動物たちとの楽しい冒険物語」という作品像、もう一つは、文学作品であるとともに国民学校読本として、スウェーデンの国土や動植物、歴史や文化の特徴を丁寧に描いた「スウェーデン一大地誌」ともいべき作品像である。前者では、魔法で小さくされる、動物と話ができる、ガチョウに乗って空を旅する、というファンタジーとダイナミックなストーリーの中で、動物たちとの様々な出来事を通した少年の心の成長が作品の中核をなす。同じストーリーながら、後者では、国土に対する理解を深め、国や故郷に対する誇りと愛情を育むという意図のもと、具体的な事実と科学に基づいた地域や事象の描写が忠実に訳出され、そのことによって、原作に通底する「自然や生き物に対する畏敬や共存の思想」が作品像の中核を形成している。

一見相容れないこの二つの側面が違和感なくみごとに融合しているのが、原作『ニルスの不思議な旅』である。邦訳においては、翻訳者や作品によってこの二つのバランスが異なり、それぞれの邦訳『ニルスの不思議な旅』の作品像が形成されている。

- 1) 佐々木基一(1914-1993)は文芸評論家として知られ、山室静(1906-2000)との関係で邦訳に加わっているものと思われる。のちに『ノーベル賞全集 7』(1971: 11-18)に掲載されたラーゲルレーヴ授与演説並びに受賞演説は佐々木訳である。
- 2) 『世界名作全集』発刊の4ヶ月後には対象を下げた『世界名作童話全集』が発刊され、千葉省三による『ニルスのふしぎな旅』が1950年10月刊行された。
- 3) 那須は児童文学者で自らも海外児童文学の再話・抄訳を数多く手がけ、1960年代におこった完訳主義論争に反論し、再話・抄訳を評価する立場をとった。
- 4) 同巻には山室静による「北欧童話集」としてアイスランドとノルウェーの8作品、ストリンドベリ Johan August Strindberg 童話3作品なども収められているが、本文総377頁中「ニルスのふしぎな旅」が232頁と6割を占める。
- 5) これまでの訳書の挿絵はリーベックの挿絵などをもとに日本人画家が描いていた。リーベックの挿絵はこのあと香川・菱木完訳でも使用されている。
- 6) 現物確認できず、おそらく1951版と同様か。
- 7) 『解釈と鑑賞 11月臨時増刊号現代児童文学事典』1962: 59-61。前年度発行された小学校教科書において海外の作品を教材化したものの一覧を掲載している。
- 8) 雑誌「週刊朝日」1958年8月3日号72-73「老学究の“オトギの旅”スウェーデンに招かれて」と題する記事。
- 9) 香川のメモには、「後藤牧太と野尻精一の二名であった。写真にはS.Nosiriとあり、Seiichinoの誤記と判定せられたり」とある。筆者も現地で名簿を確認した。メモにはさらに「明治二十年五月四日付後藤牧太は理化学及び手工科修業のため英国へ、…三年間留学を命ぜられたり。このネースの手工研修所に入学し、明治二十一年七月二十三日より九月二十三日まで木工課程を履修した。」とある。
- 10) ベータ・フィルムは「みつばちマーヤの冒険」を日本のアニメ会社と共同制作し、各国に配給した実績があった。日本では1975年4月～1976年4月に放映され、好評を博した。
- 11) 6月に12日間走行距離2000キロ、スコーネ、エーランド、ゴットランド、ストックホルムなど各地を巡り、千数百枚の写真を撮り、スケッチも多数(原(1981))。
- 12) 菱木(1960-)はスウェーデン法学者であった父菱木昭八郎の影響でスウェーデンの児童文学や絵本に幼い頃から親しみ、スウェーデン児童文学の翻訳家となり、多数の翻訳作品がある。2008年には『ニルス』の翻訳書が厚生労働省社会保障審議会より児童福祉文化財特別推薦作品(財団法人子ども未来財団より平成20年度児童福祉文化賞推薦作品)に選ばれた。2009年にはスウェーデン王国から北極星勲章を受けた。『ニルス』の舞台となるスウェーデン各地を取材し、HPや講演でもその紹介をするなど幅広い活動をしている。(http://hishiki.info/)

引用文献

- 石丸静雄/訳 1958. 『ニルスの不思議な旅』角川文庫.
 大畑末吉/訳 1960. 「ニルスのふしぎな旅」『少年少女世界文学全集 36 巻北欧編 2』講談社.

- 香川鉄蔵 / 訳 1918. 『飛行一寸法師』大日本図書.
- 香川鉄蔵・八重子 / 共訳 1934. 『不思議な旅』（非売品）.
- 香川鉄蔵・山室静・佐々木基一 / 共訳 1949. 『ニルスの不思議な旅』学陽書房.
- 香川鉄蔵 / 訳 1954a. 「ニルスのふしぎな旅」『世界少年少女文学全集 22 北欧編 2』創元社.
- 香川鉄蔵 / 訳 1954b. 『ニルスのふしぎな旅行』講談社世界名作全集 85.
- 香川鉄蔵 1958. 『NILS HOLGERSSON-RESA genom SVERIGE 1958』（非売品）.
- 香川鉄蔵 / 訳 1971a. 「ニルス・ホルゲルソンの不思議なスウェーデン旅行」高橋健二他編『ノーベル賞文学全集 18 ラーゲルレーヴ メーテルリンク ヒメネス』主婦の友社.
- 香川鉄蔵 1971b. 「ラーゲルレーヴと私」高橋健二他編『ノーベル賞文学全集 18 ラーゲルレーヴ メーテルリンク ヒメネス』月報 11, 7-8.
- 香川鉄蔵・香川節 / 訳 1982. 『ニルスのふしぎな旅 1-4』偕成社文庫.
- 香川鉄蔵先生追悼集刊行会編 1971. 追悼集『香川鉄蔵』（非売品）.
- 香川節 2003. 「父香川鉄蔵のこと」植民地文化研究 2:143-147.
- 蟹沢聡史 2007. 『文学を旅する地質学』古今書院.
- 川戸道昭他編 2005. 『児童文学翻訳作品総覧第 5 巻北欧・南欧編』414 - 441. 大空社.
- 金田一京助他 1961. 『小学校国語 3 年下』三省堂.
- 小林哥津 / 訳 1919. 『不思議の旅（瑞典のお伽話）』玄文社.
- 児童文学翻訳大事典編集委員会編 2007. 『図説児童文学翻訳大事典第 1 巻』212 - 215. 大空社.
- 小学国語編修委員会 1961. 『国語 3 年下教授用資料』三省堂.
- 全国学校図書館協議会必読図書委員会編 1964. 『何をどう読ませるか 第 2 群小学校中学年』170-173.
- 玉尾皓平 2012. 「よい教材で科学技術の恩恵を広く伝えよう」化学と教育 60 - 6 : 235.
- 中野正人 2006. 「地誌的分野の授業改善 - 「ニルス」に学ぶスウェーデン地誌」18 年度高等学校地理歴史科研究 83 - 88. 愛知県高等学校教育課題研究地理歴史研究班.
- 西山敏夫 / 文 1967. 「ニルスのふしぎな旅」『少年少女世界の名作文学 39 北欧編 2』小学館.
- 原正次 1980. 『アニメ大百科／ニルスのふしぎな旅 1』学習研究社.
- 原正次 1981. 『アニメ大百科／ニルスのふしぎな旅 2』学習研究社.
- 菱木晃子 / 訳 2007. 『ニルスのふしぎな旅』上・下. 福音館書店.
- 村山朝子 2005. 『「ニルス」に学ぶ地理教育 - 環境社会スウェーデンの原点』ナカニシヤ出版.
- 村山朝子 2011. 「地理読本『ニルスの不思議な旅』の成り立ち」茨城大学教育学部紀要（人文・社会科学・芸術）60:21-41.
- 村山朝子 2017. 「邦訳『ニルスの不思議な旅』の系譜その 1」茨城大学教育学部紀要（人文・社会科学・芸術）. 66.
- 矢崎源九郎 / 訳 1953・54. 『ニルスのふしぎな旅』岩波少年文庫.
- 山崎陽子 / 訳 2011. 『ニルスの旅 - スウェーデン初等地理読本 -』プレスポート・北欧文化通信社.
- 山室静 / 文 1956. 『ニルスのふしぎな旅』世界絵文庫 5, あかね書房.
- 山室静 / 訳 1995. 『ニルスのふしぎな旅』講談社青い鳥文庫.
- 米地文夫 2006. 「宮澤賢治「風野又三郎」とラーゲルレーヴ『ニルスのふしぎな旅』 - 空飛ぶ旅の物語と環境教育」イーハトヴ自然学研究 3. イーハトヴ自然学研究グループ（岩手県立大学環境政策講座）.

和辻照 1971. 「香川さんのこと」『香川鉄蔵』330-335.

DVD 2002. ブックレット「TV シリーズ ニルスのふしぎな旅 DVD-BOX」付録.